

平成 21 年度（平成 22 年 3 月期）決算に関する主な質疑応答

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

本日発表致しました平成 21 年度（平成 22 年 3 月期）の業績等に関しまして、皆様からお問い合わせの多いご質問への回答を、以下の通り掲載致します。なお、決算発表の概要につきましては、「記者発表」資料をご参照ください。

www.smfg.co.jp/investor/financial/latest_statement/2010_3/h2203press_pdf/h2203_4_01.pdf

1. 平成 21 年度実績関連

Q1. 経常利益や当期純利益の連単差（SMFG 連結と SMBC 単体との差異）とその要因について教えてください。

A1. 平成 21 年度の経常利益の連単差は、前年比＋869 億円改善の 961 億円となりました。

一方、当期純利益の連単差は、前年比では＋259 億円改善しましたが、▲464 億円の損失となりました。これは、連結子会社であります関西アーバン銀行において、与信関係費用の増加等により当期純損失を計上したことや、持分法適用関連会社でありますセディナにおいて、利息返還損失引当金の積み増し等により当期純損失を計上したことが主因であります。

Q2. 平成 22 年 3 月末の自己資本比率、Tier I 比率が上昇した要因について教えてください。

A2. 平成 22 年 3 月末は、日興コーディアル証券の連結子会社化等、成長事業領域の強化のための戦略施策を進めたこと等により、リスクアセットが前年度末比約＋1 兆 4,000 億円の増加となる一方、普通株式による調達その他、当期純利益の計上等により自己資本が前年度末比約＋2 兆 800 億円増加となったため、SMFG 連結自己資本比率（速報値）は前年度末比＋3.55%上昇の 15.02%、同 Tier I 比率（速報値）は前年度末比＋2.93%上昇の 11.15%となりました。

2. 業績予想関連

Q3. 平成 22 年度の連結当期純利益予想について、増減要因を教えてください。

A3. 平成 22 年度の SMFG 連結当期純利益は 3,400 億円と前年比+684 億円の増益を見込んでおります。これは、SMBC 単体において、前年比約+120 億円の当期純利益の増益を見込んでおりますほか、子会社・関連会社において、プロミス等一部の関係会社での損失発生可能性を保守的に見込んでおります一方で、日興コーディアル証券の収益寄与や、関西アーバン銀行やセディナの着実な業績の回復を見込んでおりますこと等から、連単差について前年比約+560 億円の改善を見込んでいることによるものです。

Q4. 平成 22 年度業績予想の前提とした金利・為替水準について教えてください。

A4. 円金利、ドル金利については、平成 22 年 3 月末実績値を、為替相場については、1 ドル 90 円を業績予想の前提としております。なお、平成 22 年度中の政策金利の変動はない前提としております。

3. その他

Q5. PIIGS 向けの与信の状況について教えてください。

A5. SMFG 連結ベースでは、ポルトガル、イタリア、アイルランド、ギリシャ、スペインの 5 カ国に対し、平成 22 年 3 月末時点で合計 3,000 億円程度の与信がありますが、大企業向け及びプロジェクト向けが主となっております。特にギリシャにつきましては、金額もさほど大きくなく、かつ担保により大半が保全されており、大きなリスクはないとみております。なお、いずれの国についても、国債は保有しておりません。